

## 平和と脱原発の特別アピール

夏のシンポジウム 2018

日本有機農業研究会結成（1971年）から47年余。私たちは、結成趣意書の原点に立ち戻りつつ、豊かなあるべき農と食を追求してきた。このたび、「有機農業で未来をひらこう！」をテーマに、この3月に就任した魚住道郎新理事長、及び副理事長、理事、全国の幹事、シンポジウム参加者と共に、これからの課題を出し合い未来に向けて皆で話し合う「夏のシンポジウム 2018」を東京で開催した。

そのなかで、あらためて私たちが共有する社会的にも大きな課題が浮かび上がってきた。私たちは、「3・11」直後の総会で「すべての原発を廃炉に！」と訴えた。今、あらためて今日の状況をふまえ、次の特別アピールを表明する。

### 特別アピール

## 核兵器廃絶、脱原発、戦争の放棄を訴える！

日本は憲法9条（戦争の放棄）をもつことにより、世界から二度と戦争しない国として信頼されるなか、戦後復興をなし得た。平和だからこそ私たちは農業に打ち込める。有機農業は、豊かな自然環境と戦争のない日常のなかでこそ営める、いのちをはぐくむ農業である。それを今、憲法を変えて、戦争ができる国にする勢力が台頭している。

そしてまた、かけがえのない東日本一帯の大地や河川・湖沼・海に放射能汚染をもたらした東京電力福島第一原発の過酷事故から7年余経ったが、未だに事故処理と原状復帰が見通せない状態である。火山の噴火、地震・津波がいつでも起こり得る日本列島にあって、原発は「平和利用」どころではないことを身をもって体験させられた。ところが政府は、核廃絶を求める核兵器禁止条約にも反対し、危険な原発再稼働に向かって動いている。

ここにあらためて、非人道的な核兵器を廃絶すること、すべての原子力発電所を廃炉にする脱原発へ向かうこと、憲法9条改廃を許さず戦争を永久に放棄することを訴える。

2018年8月26日

日本有機農業研究会 理事会